恐れ乍ら口上書を以って願い上げ奉り候

一　城連寺村の儀、此の度水請け堤仰せ付けさせられ下され

　　落堀の支え請け申まじくと有り難く存じ奉り候、然れ共第一

　　地形ひきく場所にて南面よりの悪水一面に落ち懸り

　　申すに付き残る田畑水場に罷り成り稲方麦作なども

　　成り申すまじくと歎かわしく存じ奉り候、然る所に村の南際に

　　幅三四尺斗りの通り道御座候、恐れ乍ら御見分の上

　　此通り道七八拾間程の間高四五尺斗りかさ置き

　　仰せ付けさせられ下され候わば東西は池の堤に取り合い申すに付き水難を

　　遁れ耕作も成申すべくと存じ奉り候、御慈悲の上かさ置き

　　仰せ付けさせられ下され候わば有り難く存じ奉るべく候

一　城連寺村惣高四百四十二石七斗余の内三百石余

　　新川床并に落堀潰れ地に罷り成り漸く残高百二十石余にて

　　御座候処、又水場に罷り成り其の上大水の節は居村へも

　　水入り住居成り申すまじくと存じ奉り候、左候わば老親妻子等

　　迄も流浪仕るべくと弥歎かわしく迷惑至極に存じ奉り候、

　　然れば天道川御切り違いより下、落堀迄の間古川床

　　御座候、此の場所は地高成る所にて御座候えば御救いに

　　城連寺村居屋敷に願い上げ奉り候、左候えば水難を遁れ

　　住み馴じみ申す所に百姓相続仕り度と普く願い奉り候、御慈悲

　　の上、右願い上げ候通り城連寺村百姓相続仕り候様に

　　仰せ付けさせられ下され候わば有り難く忝く存じ奉るべく候、以上

　　　宝永元年申十月　　　　　　　　城連寺村

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　庄屋(印) (印)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　同村

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年寄(印)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　同村

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　百姓(印)

　　　　御奉行様